

# 令和7年度 小平市立小平第一小学校 学校評価報告書

## 学校教育目標

人権尊重の精神を基調に、生涯学び続ける国際性豊かな日本人の育成を目指して、以下の教育目標の具現化に努める。  
○考える子 ◎やさしい子 ○やりぬく子 ○元気な子

## 目指す学校像(ビジョン)

- 【目指す学校像】 学校にかかわる全ての人にとって「楽しい」第一小学校
- 【目指す児童・生徒像】 重点目標 やさしい子 自他の生命を尊重し共感し、人が喜ぶ姿を見て喜べる子
- 【目指す教師像】 基礎基本を定着させ、こどもの意欲を引き出し主体的な学びを実現する教師

## 前年度までの学校経営上の成果と課題

(成果)○児童が主体的に学ぶことができる授業を意識することができた。 ○研究開発学校として幼稚園と連携して研究実践ができた。  
(課題)○不登校・登校しづりに対する体制づくりを進める。 ○保護者・地域との効果的な連携を行う。

	具体的方策	第1回評価		課題と対策	第2回評価		学校関係者評価	課題と次年度以降の対策
		努力目標	成果目標		努力目標	成果目標		
学力向上	学習のめあてを明確にして取り組み、学んだことを振り返る学習のサイクルを意識して学習を進める。	4	2	どの教科でも学習のめあてを明確にして、学んだことを振り返る学習のサイクルを意識して学習を進める指導を徹底している。今後は、各教科の学習の中に自分で課題を設定して取り組む活動を取り入れ、学習意欲もたせる授業づくりを更に推進する。	4	2	・補習やここにこルームの活用により学力の定着が図られ、それが学習意欲の向上につながっている。 ・児童の学習能力には幅があるため、一人一人に応じた丁寧な支援を継続してほしい。	教員が学習のめあてを明確にして取り組み、学んだことを振り返る学習のサイクルを意識して授業を組み立てることが児童に伝わっていないことが課題である。ユニバーサルデザインの視点で授業設計を見直し、児童が熱中できる授業づくりを推進していく。
	家庭と連携し、学年×10分の家庭学習を継続し、必達目標を達成する。	3	3	教科ごとに「必達目標」を設定し、基礎学力を保障する取組と落ち着いた学習環境を保障する学習規律を徹底している。また、家庭学習時間を確保できるよう家庭との連携を更に推進していく。	3	3	・教職員の日々の努力が成果として表れていることや、外部講師を活用した主体的な学びの充実が、生きる力の育成につながっている。	基礎・基本の定着にはまだ課題が残っている。教科ごとの「必達目標」を見直し、補習や授業開始時の復習タイム等の充実を図っていく。また、家庭学習時間を確保できるよう家庭との連携を更に推進していく。
健全育成	研修等を通して、児童一人一人の理解を深め、こどもの頑張り、成長を認め積極的に声掛けをし、価値付けていく。	4	2	校内研修等で児童理解を深める取組を推進している。教員がこどもの頑張りや成長を認め積極的に声掛けをし、価値付けていく姿勢を今後も継続していく。	4	3	・いじめへの多面的な対応や児童に寄り添う姿勢が感じられ、学校全体の雰囲気の良いさは教職員と児童の信頼関係の表れている。 ・ここにこルームの継続的な開設や登校しづり児童への丁寧な対応、管理職による家庭への配慮ある関わりは大きな安心につながっている。中学校との連携も視野に入れた取組の充実を図ってほしい。	校内研修等で児童理解を深める取組を推進し、教職員がこどもの頑張りや成長を認め積極的に声掛けの姿勢が見られた。今後も教職員が児童に寄り添う姿勢を継続し、信頼関係の醸成に努めていく。
	「学校いじめ防止基本方針」に基づき、組織的な対応を行い、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に務める。	4	2	「小平第一小学校いじめ対応基本方針」に基づき、毎週の管理職・主幹教諭・生活指導主任・養護教諭で、状況を確認している。定期的にいじめ対策委員会を開催し、早期発見、対応を徹底していく。今後も、人間関係づくりをねらいとした教育活動を充実させるとともに、家庭・地域、関連機関と連携し、児童の健全育成を図っていく。	4	3	・学校経営協議会における前向きな提案や熟議を通して、地域とともに学校を盛り上げようとする教職員の熱意が感じられた。 ・年2回の意見交換は有意義で貴重な機会となっており、今後も継続・充実を図ってほしい。 ・地域人材の発掘や情報共有を進め、委員が中心となって児童の活動を支える体制を広げていくことが期待される。	「学校いじめ防止基本方針」に基づき、組織的な対応を行い、いじめの未然防止、早期発見、早期対応を徹底してきた。児童も教職員の意識を受け止めてきている傾向が見られた。今後も、人間関係づくりをねらいとした教育活動を充実させ、家庭・地域、関連機関と連携し、児童の健全育成を図っていく。
地域連携	協議会委員と教員が意見交換する場を設定し、目指す学校、育てたい児童の姿を共有する。	4	3	教員全員が参加する学校経営協議会を年間2回開催し、学校経営協議会委員と児童からの意見を基に地域、学校でできることについて熟議する時間をとることができた。さらに、学校・保護者・地域の連携力を高めるために学校からの情報発信を継続していく。	4	4	・校内整理への協力など、地域として支援できる取組は今後も進めていくことが望ましい。 ・教職員の業務負担軽減は最も重要な課題であり、子供と向き合う時間を確保するためにも更なる改善が必要である。 ・保護者対応や補習支援などへの地域人材の活用について検討していく必要がある。	教員全員が参加する学校経営協議会を年間2回開催し、学校経営協議会委員と共に意見交換することができた。さらに、教員が学年等の単位で順番に学校経営協議会に参加し、児童の様子など共有する時間を確保できた。今後は、学校・保護者・地域の連携力を高めるために学校からの情報発信を更に推進していく必要がある。
	地域の人財、文化財を活用した学習に取り組む。学び合いを重視した「総合的な学習の時間」の中で、児童の理解と体験が往還する探究的学習を充実させていく。	2	2	「生活ひろば」[総合的な学習の時間]の中で地域を教材とした単元を作成し、地域力を活用した授業を推進することができた。今後も、学校支援ボランティア組織を充実させ、地域の教育力を活用する体制を推進していく。	4	3	・校内整理への協力など、地域として支援できる取組は今後も進めていくことが望ましい。 ・教職員の業務負担軽減は最も重要な課題であり、子供と向き合う時間を確保するためにも更なる改善が必要である。 ・保護者対応や補習支援などへの地域人材の活用について検討していく必要がある。	「生活ひろば」[総合的な学習の時間]の中で地域の人財、文化財を活用した授業を推進することができた。また、多くの学校支援ボランティアを活用した授業も展開することができた。今後も児童の理解と体験が往還する探究的学習を充実させる体制を整えていく。
働き方改革	業務量の制限と時間管理によって、放課後の時間にゆとりをもたせ、学年で学習について検討する時間を作る。	4	2	生活時程の工夫や校務システムにおけるデータの集中管理で教員が児童に向き合える時間の確保に努めている。また、講師時間の確保やスクールサポートスタッフ、エデュケーションアシスタント、学校支援ボランティアの積極的な活用により、個人の業務量のより一層の削減を図っている。	4	3	・校内整理への協力など、地域として支援できる取組は今後も進めていくことが望ましい。 ・教職員の業務負担軽減は最も重要な課題であり、子供と向き合う時間を確保するためにも更なる改善が必要である。 ・保護者対応や補習支援などへの地域人材の活用について検討していく必要がある。	校務システムにおけるデータの集中管理については、課題が残った。講師時間の確保やスクールサポートスタッフ、エデュケーションアシスタント、学校支援ボランティア活用により、教員の業務量の削減は進められた。今後は、地域人材の活用を更に進めていく必要がある。
	校内の体制を見直し、ねらいを明確にした計画作りを進め、職務の効率化を図る。	3	2	校内の体制を大幅に見直し、行事の教育効果を問いつながら、開催方法の見直しや精選を図っている。保護者・地域・教職員の意見も参考にしながら、更なる職務の効率化を推進していく。	4	3	・校内整理への協力など、地域として支援できる取組は今後も進めていくことが望ましい。 ・教職員の業務負担軽減は最も重要な課題であり、子供と向き合う時間を確保するためにも更なる改善が必要である。 ・保護者対応や補習支援などへの地域人材の活用について検討していく必要がある。	校内体制の見直しによる効果は見られた。今後は、行事等の教育効果を問いつながら、更なる開催方法の見直しや精選を図っていく必要がある。保護者・地域の意見も加味しながら、更なる職務の効率化を推進していく。
人材育成	幼小の連携(白梅幼稚園との共同研究)を推進し、新たな教科再編を提言するとともに、全員授業を原則とした授業研究を実施し、学年単位での授業づくりを徹底していく。	3	1	年間6回研究授業日を設定し、「こどもの対話力を育む指導法の工夫～発見・探究・交流を熱中して行う児童の育成」をテーマに校内研究を進めている。今後も研究授業を重ねることで幼小の連携(白梅幼稚園との共同研究)を意識した授業づくりを推進していく。	3	3	・幼稚園との交流活動やうどん作りは、児童の意欲や交流を促す有意義な取組である。 ・幼小連携による授業交流を継続してほしい。	年間6回研究授業日を設定し、「こどもの対話力を育む指導法の工夫～発見・探究・交流を熱中して行う児童の育成」をテーマに校内研究を行うことができた。来年度の文部科学省研究開発学校・小平市研究推進校としての発表に向けて、今後も幼小の連携(白梅幼稚園との共同研究)を意識した授業づくりを推進していく。
	一人1台学習者用端末を活用した指導改善や目的を明確にした活用を推進していく。	4	4	「深い学びにつながる一人一台学習者用端末を活用した指導法の工夫」をテーマに、全教員で学習者用端末の推進を図るとともに研修機会を効果的に活用し、全教員の学び合いによる学習用端末の活用スキル向上を図っていく。	4	4	・一人1台学習者用端末の効果的な活用も進んでおり、今後も目的を明確にした指導の充実を図っていくことを期待している。	教員間で積極的に授業を見合うことができる体制を整備するとともに、教員間のコミュニケーションを大切にして日常的なOJTを推進することができた。今後も研修夕会等を効果的に活用し、具体的な活用事例について情報交換する機会を充実させていく。